

橋脚工事 技術間近で

大洲・肱川橋 市民ら現場見学

架け替えが進んでいる国道56号肱川橋の工事現場（大洲市中村）が23日公開され、全長184㍎の橋を支える橋脚部分の作業を市民らが間近で見学した。

現場の様子を知ってもらおうと、国土交通省大洲河川国道事務所と橋脚の建設を請け負う大豊建設（東京都）が見学会を開催。同社の担当者が、今回の工事で採用している「ニューマチックケーソン工法」を参加者に説明した。

同工法は、あらかじめ地上で造った鉄筋コンクリート製の橋脚底部に作業室を設けて地面を掘削し、コンクリートの重さで所定の位置まで沈下させる仕組み。耐震性に優れ、騒音や振動を抑えられるという。

常に水面下に位置する作業室について、圧縮した空気を室内に送ることで水の浸入を防いでいる点や、人が入って活動できることなどを紹介。高圧下の有人作業は時間の制約があるため、作業室に掘削機を入れて地上から遠隔操作していることも解説した。

参加者は掘削機の遠隔操作を体験したり



新しい肱川橋の橋脚部分の建設工事を間近で見学する市民ら

作業の様子をスマートフォンで撮影したりし、普段は立ち入ることができない現場への理解を深めていた。喜多小学校3年首藤歩夢君（8）は「迫力があつた。掘削機を遠隔操作する貴重な体験もできよかった」と話した。

肱川橋は耐震化や歩道の拡張、洪水時に水を安全に流せるように架け替え工事が進められており、完成すれば5代目となる。

（薬師神亮太）